

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年11月11日
【四半期会計期間】	第53期第2四半期（自平成28年7月1日至平成28年9月30日）
【会社名】	株式会社廣濟堂
【英訳名】	KOSAIDO Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 浅野 健
【本店の所在の場所】	東京都港区芝四丁目6番12号
【電話番号】	(03)3453-0550(代表)
【事務連絡者氏名】	広報IR部長 茅島 葉子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝四丁目6番12号
【電話番号】	(03)3453-0550(代表)
【事務連絡者氏名】	広報IR部長 茅島 葉子
【縦覧に供する場所】	株式会社廣濟堂大阪支店 (大阪府豊中市蛍池西町二丁目2番1号) 株式会社廣濟堂神戸営業所 (兵庫県神戸市中央区東川崎町一丁目5番7号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第2四半期連結 累計期間	第53期 第2四半期連結 累計期間	第52期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	16,624	16,157	35,444
経常利益 (百万円)	272	648	1,884
親会社株主に帰属する四半期純 損失()又は親会社株主に帰 属する当期純利益 (百万円)	701	224	309
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	730	20	360
純資産額 (百万円)	40,899	41,807	42,025
総資産額 (百万円)	78,730	78,447	80,375
1株当たり四半期純損失金額 ()又は当期純利益金額 (円)	28.15	9.00	12.42
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	29.9	30.5	30.1
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,235	2,487	4,883
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	4,495	4,725	8,528
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	3,462	1,243	2,841
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	13,917	9,382	12,894

回次	第52期 第2四半期連結 会計期間	第53期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	17.58	2.61

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第52期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第53期第2四半期連結累計期間及び第52期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国経済の減速や英国のEU離脱問題に加え、円高の進行に伴う企業業績の減速感等により、景気の先行きは不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、積極的な営業活動を展開するとともに、事業活動全般にわたる効率化及び合理化を推進し、業績の向上に努めてまいりましたが、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は161億57百万円（前年同四半期比2.8%減）、連結営業利益は8億85百万円（前年同四半期比110.5%増）、連結経常利益は6億48百万円（前年同四半期比137.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純損失2億24百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失7億1百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

- ・ 情報セグメントにおきましては、印刷需要の減少により厳しい環境下であり、出版物も依然厳しい状況が続いており、また、人材事業の競争激化等もあり、売上高124億34百万円（同3.6%減）、セグメント損失97百万円（前年同期セグメント損失3億72百万円）となりました。
- ・ 葬祭セグメントにおきましては、四ツ木斎場の建て替えがありましたが、売上高37億20百万円（同0.0%増）、セグメント利益は、火葬炉の耐用年数の見直しによる減価償却費の減少等により13億41百万円（同10.3%増）となりました。
- ・ その他セグメントにおきましては、売上高4百万円（同26.9%減）、セグメント損失1百万円（前年同期セグメント損失18百万円）となりました。

（2）財政状態

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて19億28百万円減少しております。主な要因は、「有形固定資産」が33億11百万円増加したものの、「流動資産」が50億4百万円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて17億11百万円の減少となりました。主な要因は、「流動負債」が21億6百万円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2億18百万円減少しております。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失2億24百万円を計上したこと等によるものであります。この結果、自己資本比率は30.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期連結会計期間末に比べ45億35百万円減少し、93億82百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、24億87百万円(前年同四半期は12億35百万円の獲得)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が634百万円であったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、47億25百万円(前年同四半期は44億95百万円の減少)となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、12億43百万円(前年同四半期は34億62百万円の増加)となりました。これは主に、借入金が増加したこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

当社は、企業価値および株主共同の利益を維持・向上させるため、以下のとおり、買収防衛策としての情報開示ルールを導入しております。

情報開示ルールの内容

(a) 大規模買付行為の定義

当社株式等を買付ける者のうち、情報開示ルールの対象となる者は、(イ)当事者を含む株主グループの議決権割合を25%以上とすることを目的とする買付行為を行おうとする者、又は、(ロ)当該買付の結果、大規模買付者グループの議決権割合が25%以上となる買付行為を行おうとする者です。

(b) 大規模買付者による必要事項の提供

大規模買付者には、大規模買付行為を開始する前に、当社宛に、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先及び大規模買付行為によって達成しようとする目的の概要を明示し、情報開示ルールを尊重する旨を記した意向表明書をご提出いただきます。当社取締役会は、大規模買付者から提出された意向表明書受領後10営業日以内に、大規模買付者に対し、以下の各事項を含み当社取締役会が大規模買付者の行為が当社の企業価値又は株主共同の利益を低下させる買収に該当するか否かを判断するために必要と考える情報(以下これらを「必要情報」といいます。)の提供を要請する必要情報リストを交付します。当社取締役会は、大規模買付者から提供された情報が十分でないと考えた場合、大規模買付者に対して、再度、情報の提供を要請します。

当社取締役会は、大規模買付者から意向表明書が提出された事実及び当社取締役会に必要情報が提出された場合にはその旨を開示します。また、必要情報について、当社株主の皆様への判断の為に必要であると認められる場合には、適切と判断される時期に、その全部又は一部を開示します。

(イ) 大規模買付者グループの概要

(ロ) 大規模買付行為によって達成しようとする目的及び内容

(ハ) 買付対価の算定根拠及び買付資金の裏付け

(ニ) 大規模買付者が当社の経営に参画した後に想定している経営方針、事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策、人事政策等が当社企業価値又は株主共同の利益を低下させるものではないかを判断するために必要かつ十分な情報

(c) 当社取締役会による分析・検討

当社取締役会は、大規模買付者から必要情報の提供を受けた日から起算して90日以内の期間(ただし、取締役会は、必要がある場合には、この期間を30日を上限として延長することができます。延長する場合は、延長期間と延長理由を開示します。)(以下「分析検討期間」といいます。)、外部専門家の助言を受けるなどしながら、必要情報の分析・検討を行い、当社取締役会としての意見を取りまとめ、公表します。当社が、分析検討期間を原則として90日と定めているのは、当社の営む事業が、ゴルフ場事業という多様なステークホルダーに大きな影響を与える事業であること、及び葬祭事業(子会社)という公共性が高く、その動向が地域社会に大きな影響を与える事業であること等から、大規模買付行為の企業価値に与える影響を慎重に検討する必要があるためです。当社取締役会は、分析検討期間中、必要に応じて、大規模買付者と交渉し、また、株主の皆様に対する代替案の提示を行うことがあります。

(d) 大規模買付行為の開始可能時期

大規模買付行為者は、分析検討期間の経過後にのみ開始することができるものとします。

(e) 情報開示ルールの適用外

当社取締役会は、上記(c)の分析・検討の結果、あるいは、それ以前であっても、大規模買付者による大規模買付行為が当社の企業価値又は株主共同の利益を低下させる買収には該当しないと判断した場合には、以後情報開示ルールを適用せず、また、対抗処置を発動しない旨を直ちに決議し、当社取締役会が適切と判断する時点で公表します。

大規模買付行為がなされた場合の対応方針

(a) 大規模買付者が情報開示ルールを遵守しなかった場合

大規模買付者が情報開示ルールを遵守しなかった場合、当社取締役会は、会社法その他の法律及び定款のもとで可能な対抗措置のうちからそのときの状況に応じ最も適切と判断した手段を選択し対抗措置を発動することがあります。

(b) 大規模買付者が情報開示ルールを遵守している場合

当社取締役会は、大規模買付者が情報開示ルールを遵守している場合には、大規模買付行為に対する対抗措置を発動しません。ただし、当該大規模買付行為が当社の企業価値又は株主共同の利益を著しく低下させると合理的に判断される場合（買収目的や経営方針・事業計画等からみて企業価値を著しく損なうことが明白であるもの、買収に応じることを株主に強要する仕組みをとるもの、従業員、顧客、取引先などのステークホルダーの利益を損なう結果企業価値を著しく損なうものなど。）には、前記(a)と同様の対抗措置を発動することがあります。

(c) 当社取締役会による意見表明

当社取締役会は、大規模買付行為に対して対抗措置を発動しない場合でも、大規模買付者による大規模買付行為後の経営方針及び事業計画が不合理であると疑う場合、当社取締役会の経営方針及び事業計画（大規模買付者による大規模買付行為後の経営方針及び事業計画に対する代替案を含みます。）に劣ると疑う場合その他当社の企業価値又は株主共同の利益の維持・向上に資するものではないと疑う場合には、その旨の意見表明を行い、前記方針及び計画を適切な時期に開示し、株主の皆様のご判断を仰ぎます。

対抗措置を発動する場合の手続き

当社取締役会は、大規模買付者に対して対抗措置を発動するのが適当か否かを判断する場合、その判断の公正性を確保するために必要があるときは、当社取締役会から独立した組織として設置される委員会に対抗措置の発動の適否を諮問し、勧告を受けます。

なお、当社取締役会が委員会に諮問して答申を受けるまでの期間は、(c)に定める分析検討期間内に含まれます。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	95,130,000
計	95,130,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	24,922,600	24,922,600	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株 あります。
計	24,922,600	24,922,600	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増 減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	-	24,922,600	-	4,000	-	-

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
櫻井 美江	東京都渋谷区	2,413	9.68
エイチ・エス証券株式会社	東京都新宿区西新宿6-8-1住友不動産新宿オークタ ワー27階	1,840	7.38
廣濟堂取引先持株会	東京都港区芝4-6-12	1,363	5.47
澤田ホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿6-8-1	989	3.97
廣濟堂社員持株会	東京都港区芝4-6-12	754	3.03
株式会社ヤクルト本社	東京都港区東新橋1-1-19	746	2.99
株式会社学研ホールディングス	東京都品川区西五反田2-11-8	584	2.34
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	545	2.19
株式会社静岡中央銀行	静岡県沼津市大手町4-76	510	2.05
凸版印刷株式会社	東京都台東区台東1-5-1	396	1.59
計	-	10,141	40.69

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 8,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,889,200	248,892	-
単元未満株式	普通株式 24,700	-	-
発行済株式総数	24,922,600	-	-
総株主の議決権	-	248,892	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4,300株(議決権の数43個)含まれて
おります。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社廣濟堂	東京都港区芝4-6-12	8,700	-	8,700	0.03
計	-	8,700	-	8,700	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,894	9,382
受取手形及び売掛金	7,001	5,430
商品及び製品	470	520
仕掛品	528	761
原材料及び貯蔵品	274	246
その他	1,137	969
貸倒引当金	63	69
流動資産合計	22,245	17,241
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,457	12,274
機械装置及び運搬具(純額)	2,594	2,403
土地	16,514	16,514
建設仮勘定	8,122	11,977
工具、器具及び備品(純額)	3,218	3,258
その他(純額)	1,104	893
有形固定資産合計	44,011	47,322
無形固定資産	1,276	1,234
投資その他の資産		
投資有価証券	7,413	7,513
その他	6,304	6,039
貸倒引当金	1,017	1,041
投資その他の資産合計	12,700	12,512
固定資産合計	57,988	61,068
繰延資産	140	137
資産合計	80,375	78,447
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,461	1,954
短期借入金	3,050	1,650
1年内返済予定の長期借入金	3,135	3,186
1年内償還予定の社債	1,864	1,832
未払法人税等	555	533
賞与引当金	315	315
返品調整引当金	26	26
その他	4,546	4,350
流動負債合計	15,953	13,847

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
固定負債		
社債	4,634	4,684
長期借入金	12,729	13,280
繰延税金負債	1,590	1,590
再評価に係る繰延税金負債	473	473
役員退職慰労引当金	165	165
退職給付に係る負債	20	23
その他	2,783	2,575
固定負債合計	22,396	22,792
負債合計	38,350	36,639
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
利益剰余金	20,057	19,833
自己株式	5	5
株主資本合計	24,052	23,827
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	870	876
土地再評価差額金	640	640
為替換算調整勘定	67	159
その他の包括利益累計額合計	162	76
非支配株主持分	17,810	17,903
純資産合計	42,025	41,807
負債純資産合計	80,375	78,447

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)
売上高	16,624	16,157
売上原価	11,657	10,980
売上総利益	4,967	5,176
販売費及び一般管理費	4,546	4,290
営業利益	420	885
営業外収益		
受取利息	37	18
受取配当金	35	38
受取賃貸料	40	53
作業くず売却益	44	38
その他	37	39
営業外収益合計	195	188
営業外費用		
支払利息	135	131
その他	208	294
営業外費用合計	343	425
経常利益	272	648
特別利益		
固定資産売却益	5	-
投資有価証券売却益	2	0
特別利益合計	7	0
特別損失		
固定資産除却損	279	13
その他	0	-
特別損失合計	279	13
税金等調整前四半期純利益	0	634
法人税等	415	486
四半期純利益又は四半期純損失 ()	414	147
非支配株主に帰属する四半期純利益	286	371
親会社株主に帰属する四半期純損失 ()	701	224

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	414	147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	362	2
土地再評価差額金	33	-
為替換算調整勘定	10	132
持分法適用会社に対する持分相当額	3	7
その他の包括利益合計	315	127
四半期包括利益	730	20
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,017	310
非支配株主に係る四半期包括利益	287	330

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	0	634
減価償却費	1,065	921
引当金の増減額(は減少)	234	32
受取利息及び受取配当金	73	56
支払利息	135	131
売上債権の増減額(は増加)	1,079	1,545
たな卸資産の増減額(は増加)	137	276
仕入債務の増減額(は減少)	354	494
その他	160	583
小計	1,642	3,020
利息及び配当金の受取額	73	56
利息の支払額	141	134
法人税等の支払額	338	455
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,235	2,487
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	0	85
投資有価証券の売却による収入	39	0
有形及び無形固定資産の取得による支出	4,358	4,291
有形及び無形固定資産の売却による収入	84	-
貸付けによる支出	118	58
貸付金の回収による収入	69	60
その他	211	350
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,495	4,725
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	540	1,400
長期借入れによる収入	4,700	2,700
長期借入金の返済による支出	1,595	2,098
社債の発行による収入	1,500	1,000
社債の償還による支出	962	982
自己株式の純増減額(は増加)	0	0
配当金の支払額	174	-
非支配株主への配当金の支払額	237	237
その他	308	225
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,462	1,243
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	30
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	204	3,512
現金及び現金同等物の期首残高	13,713	12,894
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,917	9,382

【注記事項】

(会計上の見積りの変更)

当社の連結子会社である東京博善㈱は、従来、保有する機械装置（火葬炉）の耐用年数を6年として減価償却を行ってきましたが、第1四半期連結会計期間において、四ツ木斎場建て替えを契機に、耐用年数の見直しを行いました。その結果、機械装置（火葬炉）の使用実態をより適切に反映し、実態に即した減価償却計算を行うため、耐用年数を16年に見直し将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ103百万円増加しております

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
給与賞与	1,512百万円	1,445百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	13,917百万円	9,382百万円
現金及び現金同等物	13,917	9,382

(株主資本等関係)

1. 前第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	174	7	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 当第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報	葬祭	その他	合計		
売上高						
外部顧客への 売上高	12,898	3,719	6	16,624	-	16,624
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1	-	-	1	1	-
計	12,900	3,719	6	16,626	1	16,624
セグメント利益 又は損失()	372	1,216	18	825	404	420

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 404百万円には、セグメント間取引消去 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 397百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報	葬祭	その他	合計		
売上高						
外部顧客への 売上高	12,433	3,720	4	16,157	-	16,157
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1	-	-	1	1	-
計	12,434	3,720	4	16,159	1	16,157
セグメント利益 又は損失()	97	1,341	1	1,241	355	885

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 355百万円には、セグメント間取引消去 0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 355百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項
(会計上の見積りの変更)

葬祭セグメントにおいては、従来、保有する機械装置(火葬炉)の耐用年数を6年として減価償却を行ってきましたが、第1四半期連結会計期間において、四ツ木斎場建て替えを契機に、耐用年数の見直しを行いました。その結果、機械装置(火葬炉)の使用実態をより適切に反映し、実態に即した減価償却計算を行うため、耐用年数を16年に見直し将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は103百万円増加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	28.15円	9.00円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(百万円)	701	224
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純損失金額()(百万円)	701	224
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,914	24,913

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月10日

株式会社廣濟堂

取締役会 御中

興亜監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宇佐美 浩一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 武田 茂 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社廣濟堂の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社廣濟堂及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。